

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0872000500
法人名	872000500
事業所名	グループホーム ファミーユ
所在地 (電話番号)	茨城県つくば市大曾根3681 (電話)029-864-7555

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年6月26日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 22人, 非常勤 0人, 常勤換算	21.59人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	4階 建ての	2階 ~ 4階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,200 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名	
要介護1		名	要介護2	10 名		
要介護3	11 名		要介護4	5 名		
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	86.1 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いちほら病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム全体が芝生と大きな桜の木に囲まれ、病院敷地内に建設された地上4階建ての施設である。大型法人のなかにある施設ではあるが共有空間は家庭的な雰囲気があり、職員はもとより利用者の明るい笑顔と対応が印象的であった。特に昼食時は、午前中から利用者と職員が一緒になり食事を作り一緒に食べる。管理者の理念と認知症に対するケアの方針がスタッフの隅々まで行き渡り実行されている強い印象を受けることが出来た。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 刃物の管理について夜間など職員の目の届かない時間に安全な場所への保管が改善点としてあげられた。その状況について職員と管理者間で話し合いを持ち、夜間など安全を考慮し鍵のかかる場所へ保管するなどの改善が確認された。浴室の手すりの取り付けに対しては、ハード面での大きな改良が必要とされ現在検討中である。しかし入浴の際には以前より職員の配置を多くするなどの安全対策は既に取られている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の指導のもと職員も外部評価の意義を正確に理解されている。自己評価での職員の取り組みでは、職員全体で日頃の介護の見直しや改善点を話し合い事前に改善する事が出来たと話されている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>外部評価を行った段階で運営推進会議は開催されていないが、7月に家族会をふまえて運営推進会議が開催される予定となっている。その議事や報告内容は事前に書式化され、運営推進会議のプログラムとして運営推進会議の出席者に配布されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を職員の見えにくい位置に設置するなど、家族からの意見を積極的に受け入れる体制があり、その意見は、管理者から職員へと反映され、全体的なケアの向上に向け話し合いを持ち、改善へと向けられている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設の設置や環境の状況から地域との連携にやや困難な状況があると思われる。その環境のなかでも、利用者に対し積極的に外出をすすめたり、隣接する病院や老健などをこまめに訪れその中の利用者との関わりを密にしていくなど当施設ならではの工夫が見られた。またボランティアや地域住民を受け入れ外部からの接触が頻回になるように工夫されている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念のほか基本方針、ケア原則として明示し法人理念とは別にホームとしての理念を立ち上げ、朝の申し送りなどを利用し職員に浸透するよう工夫されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	寄り添うケアを中心とし利用者の尊厳を守ることを基本としている。ホームの見やすい位置に掲示し、家族や職員がいつでも確認でき日々の取り組みに生かせるように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設のおかれている環境や4階建ての造りから地域との連携に困難な状況がある。職員の工夫や配慮により地域との連携が図れるよう努力されている。	○	今後も地域との連携に対し、ホーム側から地域の奉仕活動など積極的に参加され、更なる地域連携に努力されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が外部評価の意義を正確に理解され積極的に自己評価に取り組まれている。自己評価を行うことによりケアの見直しやケアに関しての新たな気づきなどもあり、外部評価を有効に活用されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現段階では開催されていない。来月推進会議の予定がある。また家族会を年に3回実施するなど家族や行政の意見を受け入れる積極的な情報収集の工夫が見られる。	○	現段階では推進会議が行われていない。今後家族、行政を交えた推進会議の開催予定がある。

茨城県 グループホームファミリーユ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	つくば市グループホーム連絡協議会を結成し行政との連携や他グループホームとの連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会開催時に事業報告などの報告を行い、書面などを活用し家族への報告をこまめに行っている。また認知症を見る家族のために認知症の家族向け学習会を開催するなど、家族との連携を密にし、具体的な報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を作り年3回開催されており、その中で具体的に事業の報告などと一緒に家族からの意見や要望を聞き入れる体制を作っている。また 玄関には職員の見えにくい場所に意見箱を設置するなど家族の意見を聞き入れやすいよう工夫されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動を最小限にし馴染みの関係が維持できるよう工夫されている。また職員の離職率も非常に低く開設時からの職員も多く職員のための介護環境も整えられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部内研修は年間計画を立ち上げそれに対し多くの職員が参加できるよう工夫されている。また部内での事例検討会などケアの向上に対しても積極的に取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡協議会を通し、他のグループホームとの連携を密接にとるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学や体験(1泊)などを行い、利用者が安心しスムーズに入居できるよう家族との連携をとりサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や余暇時間など日常的場面の機会を作り関係を築いている。また利用者のペースを重視した、ケアの提供を心がけ待つケアの徹底を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや生活史を十分に把握しその人らしい生活の提供を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	立ち上げシート、バックグラウンド、アセスメントシート、ケアプランを十分に活用し利用者の生活歴などを十分に踏まえプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状を把握し、利用者の状況に合わせたプランの変更が適宜行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊、また法人としての多機能化を生かした、ケアの提供を行い、利用者や家族のニーズに細かに対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望が第一選択ではあるが、法人内の医師にかかり緊急時の対応をスムーズにしている。また施設には看護師が常勤しており、利用者の急な対応や介護士の不安の軽減にも配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの経験があり「尊厳のある死」について職員間で学習するなど見取りに対しての準備がある。また利用契約時にも看取りについての内容が記載され家族の承諾がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や記録物などは、鍵のかかる部屋に保管され、情報の漏洩に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや利用者の希望を重視した、待つケアの実施が積極的に行われ、その人らしさを十分に配慮した尊厳を守るケアの徹底や職員教育が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が昼食作りを一緒に行い、昼食を全員で食べるなどの食事を楽しむための配慮が随所に見られた。食後も利用者と職員が互いに協調しあい家族的な雰囲気のある食事の時間が提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況に合わせて毎日入浴が可能になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や裁縫など女性ならではの役割のほか、男性利用者に関しては、園芸や基など多様な役割や楽しみごとが提供されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出の支援があり、利用者の希望により外出できるようになっている。またイベント的な外出も年間を通し計画され実施されている。外出時には家族の参加など工夫もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上から玄関に施錠しているが居室の施錠はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や通報訓練など災害時に備えての訓練を計画的に行っている。また災害時の備蓄など法人として確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量・水分摂取量など個人で確保され必要に応じて加減されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、こじんまりと設置されているがその中で利用者が思い思いの場所に自分の居場所を確保し、その人らしい時間の過ごし方が提供されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの物品や、使い慣れた品が置かれ利用者の個別的な空間が設定され、利用者が1人自分の時間を過ごせる空間が提供されている。		